

## マーケット概況（2024年12月）

12月の債券相場は、植田日銀総裁の追加利上げの時期が近づいている旨の発言が伝わったことから売りが先行し、10年376回債は前月末比+2.5bpの1.075%で取引を開始した。ただ、韓国における政情不安の高まりや、11月米国雇用統計の内容を受けFOMCによる月内の利下げ観測が強まったことから反発し、10年376回債の利回りは1.030%まで低下した。その後は、複数の報道から日銀の12月利上げ観測が後退し、債券相場は底堅く推移した。18日のFOMCでは大方の予想通り0.25%の利下げが決定されたが、2025年の政策金利の引き下げ回数を見通しを従前から引き下げるタカ派的な内容となったことから米国債は大幅安となった。本邦債券市場も下落したが、19日の日銀金融政策決定会合で政策金利が据え置かれ、会見で植田総裁が追加利上げに慎重な姿勢を示したことから上昇し、10年376回債の利回りは再び1.030%まで低下した。月末にかけては、米国のトランプ次期大統領の政策を巡るインフレ再燃への警戒から米国債相場が続落したことに加え、2025年度の国債市中発行額が前年当初予算比増額されるとの報道や早期利上げへの思惑などから売りが優勢となった。10年376回債は一時1.110%と2011年7月以来の安値を更新し、結局、1.090%で取引を終えた。

### <短国市場>

12月の短国市場は6日の3M1273回債入札は好需給を背景に最高落札利回り0.15%台としっかりだったが、9日の6M1274回債は0.30%台と前回入札比約10bp金利上昇し、利上げを織り込む形となった。しかし、月半ばに利上げ時期後退の観測報道がなされると6M1274回債は0.26%台に金利低下、18日の1Y1276回債は入札前に0.50%近辺で取引されたが、結果は0.480%台としっかりだった。日銀金融政策決定会合で現状維持が決定されると20日の3M1277回債入札は0.14%と前回より金利低下し、1Y1276回債は0.410%まで買われた。その後は年越え担保ニーズが一服すると、年始に入札される3MWIが0.200%台で出合うなど水準調整が入り、6MWI1279は0.360%が取引され、金利上昇して年内を終えた。

### <一般債市場>

12月の定例地方債は、5年債と10年債ともに4ヵ月連続で前月対比横ばいの国債カーブ対比+10bpで条件決定した。10年政保債は、前月対比横ばいの国債カーブ対比+8bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは前月比横ばいの2bpが継続した。17日の社債買入オペは按分利回り・平均利回りとともに1%を大幅に超えて過去最高金利を更新した。払込日ベースの12月の事業会社債の発行額は、米国大統領選挙などにより前月の発行が控えられた反動から発行が増加し、前年同月比70%増の1兆8,201億円(72銘柄)となった。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#376	1.075(2日)	1.030(9日)	1.110(27日)	1.090(30日)
#375	1.035(2日)	0.990(20日)	1.085(27日)	1.055(30日)
#366	0.840(2日)	0.790(20日)	0.890(30日)	0.870(30日)
#174(5Y)	0.750(2日)	0.680(20日)	0.760(19日)	0.735(30日)
#190(20Y)	1.865(2日)	1.835(20日)	1.900(19日)	1.885(30日)
#1267-#1274 TDB(6M)	0.300(9日)	0.265(13日)	0.305(9日)	0.265(13日)
#1272-#1277 TDB(3M)	0.120(2日)	0.115(18日)	0.215(27日)	0.215(30日)